

ラ、現實ニ卽セヌ机上ノ推理ハ百害アツテ一益ナキノ歎ヲ禁ズルコトガ出來ヌ、「フキユーメ」問題ニシテモアレ程天下ヲ騒ガセナガラ、其歸着ハ果シテ如何デアルカ、筆者ハ多ク語ルヲ好マス、唯眞摯極東ノ靜謐ヲ希フノ餘リ此數行ヲ書イタニ過ギヌ。

第三十一章 講和會議ニ於ケル山東問題 (四)

山東條項ニ對スル支那ノ抗議

五月一日午前ノ三頭會議ハ山東問題決定ノ次第ヲ「バルフォア」外相ヨリ支那側ニ通告サセルニ決シタノデ同外相ハ卽日口頭デ山東條項ノ大意ヲ告ゲ、併セテ日本ハ經濟的權利ヲ保有スルノミデ、獨逸ノ有セシ政治上ノ權利ハ悉ク支那ニ還附サレルコト等首相會議了解ノ概略ヲ語ツタ。之レニ對シ陸徵祥外交總長ハ三頭會議議長ニ宛テタ五月四日附書翰デ、支那參戰ノ結果獨逸トノ條約ハ消滅シタコト、日支條約取極ハ暴力ニ依ツテ締結ヲ餘儀ナクサレタモノデアルコト等ヲ舉タ後、山東問題ノ決定ニ對シテ正式ニ抗議スル旨ヲ聲明シタガ、對獨講和條約要領報告ノ爲メニ開カレタ五月六日ノ第六回總會議ノ席上陸總長ハ、更ニ山東條款ガ支那ノ權利ト正義及安寧ニ充分ノ考慮ヲ加ヘアラザルコトヲ述べ、右解決ニ對シ修正ヲ得ムトノ希望ヲ以テ正式ニ抗議シテ置イタガ、若シ其修正ニシテ行ハレヌ場合ニハ支那代表ハ山東條項ニ對シ今ヨリ留保ヲ爲サザルヲ得ズト認ムト聲明シタ。當夜筆者ハ起草委員會デ對獨講和條件最後ノ校合ヲシテ居タラ、支那ノ書記官ガ米國起草委員ヲ訪ネテ來テ、山東條項ノ正文ヲ貰ツテ行クノヲ垣間見タ。

留保調印ノ聲明

五月二十六日陸總長ハ左記要領ノ公文ヲ講和會議議長ニ送ツテ、正式ニ留保調印ノ意思ヲ表明シタ。

四月三十日山東ニ關スル首相會議ノ決定ノ通告ヲ受ケタルニ付、五月四日附公文ヲ以テ右決定ニ對シ不取敢抗議シ、次デ六日ノ總會議ニ於テ對獨講和條件中山東條項ニ留保ヲ聲明セリ、五月七日獨逸全權ニ講和條件交付後夕刻ニ至リ同條件ノ交付ヲ受ケ、之レヲ査閲セル處、山東條項第百五十六條、第百五十七條及第百五十八條ハ、支那ヲシテ失望セシムル益々甚ダシキモノアリ、山東全省ノ宗主權者トシテノ支那ノ權利ヲ保全スル爲メ、將又太古ヨリ此地ニ居住セル支那數百萬蒼生ノ福祉確保ノ爲メ、何等ノ規定存在セザルノミナラズ、前記三條ノ讓渡ハ名義上獨逸ニ對シテ要求セラルト雖モ、事實上支那ノ犧牲ニ於テノミ實行セラルルモノナリ、山東問題ニ關スル首相會議ノ決議一度支那ニ傳ヘラルルヤ、國ヲ舉ゲテ失望スルト共ニ、到處支那國民ノ抗議ノ聲ヲ昂メ、支那委員ハ國會、各省議會、各商業會議所、教育及農事ノ各協會其他支那内外ノ重要ナル團體ヨリ對獨平和條約ニ調印セザランコトヲ慫慂スルノ電報ニ接シタリ。

右支那國民希望ノ流露否定スベカラザルモノアルニ鑑ミ、獨逸トノ平和條約ニ對シ支那政府ノ執ルベキ態度ニ關シ、選擇ノ餘地少ナシ、然レドモ戰爭遂行ニ於ケルト等シク、世界平和回復ノ爲メ同盟及聯合國ノ目的ノ統一ヲ害スルモノト解セラルルガ如キ一切ノ行動ヲ出來得ベクンバ避ケンツル眞摯ナル希望ニ基キ支那ハ既ニ五月六日ノ總會議ニ於テ山東條項ニ付テ爲シタル留保ノ下ニ對獨平和條約ニ調印スルニ決シタリ、但シ右決定ニ依ル支那政府ノ抗議ハ獨逸ガ山東省ニ於テ有スル權利特權ノ放棄ニ對スルモノニ非ズシテ、該放棄ガ支那ノ宗主權ノ侵害ニ於テ日本ノ利益ノ爲メニ行ハルルコトニ對シテ、之レヲ爲スモノナ

ルコトヲ確言セント欲ス。

余ハ本國政府ノ訓令ニ基キ、支那全權ハ五月六日ノ總會議ニ於テ聲明シ、會議錄ニ記錄サレタル留保ノ下ニ、獨逸トノ平和條約ニ支那共和國ノ爲メニ署名スベキコトヲ、貴下ニ通告スルノ光榮ヲ有ス。

支那ノ講和委員ハ山東省ガ孔孟出生ノ地デ支那人ノ最モ敬慕愛著スル處ダトカ、山東條項ハ支那主權ノ蹂躪デアルカラ之ニ反抗スル爲メ國ヲ舉ゲテ武器ヲ取ルベシトカ、盛ニ獅子吼シテ居ルカ、該條項ハ獨逸ノ權利ヲ日本ニ引繼ガセタケデ、之レニ依ツテ支那ガ失ツタモノハ何モナイノデアル。況ンヤ日本ハ其戰果トシテ一度ハ之レヲ受繼グカ、支那ニ返シテヤルト約束シテ居ルノダカラ、我ニ感謝スルノガ當然ナノニ、歐洲國民ノ心理狀態ヲ巧ミニ利用シテ、恰モ日本ノ還附約束ガ實現性ナキモノノ如ク宣傳シテ居ルノハ、欺瞞ノ極テ、親善ナラザル可ラザル日本トノ關係ヲ徒ラニ疎隔スルニ過ギヌ無意味ノ行動デアル。

北京政府ノ提議ト我回答

巴里デ支那委員ガ斯クノ如キ言辭ヲ弄シテ居ル時、北京デハ五月十九日除大總統ノ内意ヲ含ンデ陸宗輿氏ガ小幡公使ヲ訪問シ、陸外交總長ハ渡佛前ニ決定ノ方針ヲ講和會議デ守ラズ、年少野心家願、王兩人ヲシ節度ヲ逸シ思フガ儘ノ行動ヲ恣ニセシメ、而カモ山東問題ハ遂ニ彼等ノ意ノ如クニハ解決サレズ、全然支那ノ失敗ニ歸シタ許リデナク、日本トノ善隣ノ關係ニモ甚ダシク累ヲ及ボシタノハ、年來最モ眞面目ニ日支提携兩國親善ノ實現ヲ念トシテ居ル大總統ノ頗ル遺憾トシ、又甚ダ憂慮シツツアル處デアル、就テハ大總統ハ日本

ノ意嚮如何ニ依ツテハ此際山東問題ニ關シ直接兩國間ニ協議ヲ遂グルモ可ナリト考ヘ居リ、協議ノ時機及場所即チ協議ハ速カニ之レヲ開始スルヲ得策トスルカドウカ、又協議ハ東京デスルカ或ハ北京デスルカ、其邊ニ關シ小幡公使ノ意見ヲ聞キタイト申出タ。

小幡公使ハ本國政府ノ意嚮ヲ知ラヌカラ、只漫然自分ノ意見ヲ述ベタトテ、若シ政府ノ是認ヲ得ルコトガ出來ヌ場合ニハ無駄ニ終ルカラ、是非自分ノ意見ヲ承知シタイトナラバ、一應政府ノ意嚮ヲ確メル外ハナイガ今申出ノ事ニ關シ意見ヲ交換スルニ先チ、豫メ日本トシテ承知シテ置カネバナラヌコトハ、過般巴里デ決定ノ講和條件ニ對シ支那政府ノ執リツツアル態度デアル、聞ケバ支那政府ハ其全權ニ平和條約ニハ山東條項ヲ留保シテ調印セヨト電訓シタトノコトダガ、之レガ事實ナラバ支那政府ノ此態度ハ只今所述ノ希望ト甚ダシク矛盾スル様ニ感ゼラレル、支那政府ハ果シテ右ノ如キ電訓ヲ發シタノカ、ト反問シタラ陸氏ハ、電訓ノ内容ニ付テハ充分承知セヌガ、山東條項ヲ留保シタノハ即チ本問題ヲ日支間ニ直接協定セムト欲スル爲メカト思ハレル、ト答ヘタ。依テ小幡公使ハ日本ガ目下山東鐵道ヲ管理シ、青島ヲ掌握セルハ、日獨戰爭ノ軍事行動ニ伴フ事實上ノ占領デ、日本ガ是等ヲ適法ニ處分シ得ル權限ハ、平和條約ガ確定シ、日本獨逸ノ權利ヲ繼承シテ初メテ生ズル次第ダカラ、平和條約ノ效力發生以前ニハ、嚴格ニ云ヘバ日本ハ支那ト山東問題ヲ議スル地位ニ在ラヌ譯ダ。尤モ平和條約ノ發效ヲ見越シ、其際效力ヲ生ゼサセル意味ノ取極ナラ、今カラ結ベヌ限リデモナイガ、只此場合ニハ支那政府ハ其全權ヲシテ留保附調印ト云フ様ナ態度ニ出デシメズ、全然無條件デ調印サセルコトガ必要ダ、何レ篤ト研究シテ置カウ、ト答ヘテ當日ノ會議ヲ終ツタガ、其口氣デモ察セ

ラレル通り、小幡公使ハドウセ結ブ取極ナノダカラ、今之レヲ締結シテ支那ノ無留保調印ヲ巴里デサセ得ルニ於テハ、日支關係ノ大局カラ見て得策ダト考ヘタニ相違ナイ。

此日錢總理カラモ遠良氏ヲ使トシテ、目下喧囂ヲ極メツツアル民心ヲ安ンズル爲メ、又一面ニハ日支離間ヲ計畫スル外國人ヲシテ活動ノ餘地ナカラシムル爲メ、詳細ノ協定ハ後日ニ讓ル、支那ガ青島管理ヲ直チニ實行スルコトハ出來ヌダラウカト、小幡公使ニ内議セシメタ。

以上ノ情報ニ接シタ我政府ハ、徐大總統ガ山東問題ヲ解決シテ日支兩國ノ關係ヲ改善セントスルノ趣旨ニハ至極同感ダガ、本件ノ協議ヲ今直ニ行ヘバ、支那昨今ノ風潮ニ鑑ミ、日本ノ提議ガ如何ニ公正穩當デアツテモ、支那ノ世論ハ必ズ沸騰スルデアロウ、又日本國內デモ正反對ノ見地カラ不滿ノ聲ガ起リ、事態ハ却テ一層紛糾スル虞ガアルカラ、日本ハ至當ノ順序ヲ追ヒ、平和條約ノ成立ヲ待ツテ支那政府ト商議スル方ガ得策ダ、尤モ支那政府ガ此際日本カラ青島還附ニ關シ、更ニ何等カノ諒解ヲ得ンコトヲ希望スルナラ「日本ハ獨逸トノ平和條約ニ依リ膠州灣租借權ヲ同國ヨリ讓受ケタ上ハ、帝國累次ノ聲明及日支兩國間ノ協定ニ準據シテ、該租借地ヲ支那ニ還附スルノ決意ヲ有スルニ付、支那政府ニテ異存無キニ於テハ、今回同盟及聯合國ヨリ獨逸ニ交付セル平和條約ガ調印セラレ、日支兩國並ニ獨逸ニ對シ效力ヲ生ズルヲ待ツテ、直ニ日支間ニ本件膠州灣租借地還附ニ關スル細目ノ商議ヲ開始スベシ」ト云フ約束ヲシテモ差支ハ無イト廟議ヲ決シ、此旨ヲ小幡公使ニ通達シタカラ、六月五日同公使ハ船津書記官ヲシテ陸宗輿氏ニ右ノ約束案ヲ交付シ必要ナ説明ヲ加ヘサセルト同時ニ、若シ支那側ヲ希望スルナラ之レヲ正式ノ覺書トシテ外交部ニ提出シテモ差支ナイ故

支那政府カラ夫レニ諒承ノ回答ヲスル様ニシタラ良カラウト話サセタ。

六月二十一日施履本氏ハ外交總長代理ノ内意ヲ受ケテ小幡公使ヲ訪問シ、平和條約ニ無留保デ調印スル様巴里ノ全權ニ電訓シタコトヲ内報シタ後、山東問題ニ關スル輿論ニ鑑ミ、過日内密ニ陸宗輿氏トノ内話ノ趣旨ニ依リ、日本政府カラ何等カ適確ナ聲明ヲ得バ都合ダト述ベタ、小幡公使ハ前掲ノ覺書ヲ交付シテ差支ナイカ、是レガ爲メニハ支那政府カラ無留保調印ノ訓令ヲ發シタコトヲ明確ニシ、陸宗輿氏ト内議シタ趣旨デ日本ノ聲明ヲ希望スル旨ヲ記載シタ書面ヲ送ラレタイト告ゲタ。爾來文書ノ文句ニ付テモ内協議ガ成立シタニ拘ハラズ、訓令ガ出先デ無視サレタノカ或ハ北京政府ガ我ヲ裏切ツテ食言の行爲ヲ敢テシタノカ、何レニセヨ巴里デハ留保調印ヲ固執シ、其容レラレザルニ及ンデ終ニ條約不調印ニ決シタ、我國トシテ斯クノ如キ厚顏無耻ノ行動ニ對シ憤激措ク能ハナカツタノハ云フ迄モ無イ事デ、此不信ノ顛末ヲ天下ニ暴露シテ支那ノ主張ニ對スル真相ヲ闡明シタラト云フ意見モ大分在ツタガ、山東問題ハ支那ノ内政問題ニ利用サレテモ居ルコト故、之レヲ公表スルト徐大總統ノ立場ヲ困難ナラシメル虞ガアルノヲ考慮シ、我當局ハ極東靜謐ノ大局觀カラ、此經緯ヲ發表セヌコトニ決シタ。

支那講和委員其後ノ行動

前掲五月二十六日ノ留保調印ニ關スル陸總長ノ書翰ニ接シタ「クレマンソー」議長ハ、平和條約ニハ單純ニ調印スルカ又ハ全然調印セヌカノ二途アルノミデ、苟モ條約ニ調印スル以上其規定ニ從ハナクテハナラヌト

回答シタ。「ク」氏ハ六月二十五日ノ首相會議ニ此旨ヲ報告シタラ、「ウキルソン」大統領ハ「ランシング」氏ノ說ニ依レバ苟モ主權國タルモノハ條約ニ調印スルニ當リ留保ヲ爲シ得ルトノコトダト述ベタ。「ク」氏ハ羅馬尼、塞耳比等ノ委員ガ留保附調印ヲスル旨申出タルニ對シ、果シテ如何ナル事ヲ意味スルノカト詰問シタコトガアル、留保シテ調印スル條約ハ眞ニ條約ト稱スルコトハ出來ヌト論ジ、「ロイド、ジョージ」氏モ伊太利ハ或事項ニ付留保ヲシタガ、條約ニハ何等ノ留保ナシニ調印スル筈ダト述ベテ「ク」氏ノ說ニ賛成シタ牧野男ハ支那ノ留保トハ如何ナル意味ヲ有スルモノカ、若シ留保ニ依リテ平和條約中支那ニ關スル規定ノ拘束ヲ受ケヌトノ趣旨デアルナラ、之レハ到底承諾スルコトハ出來ヌ、萬一斯クノ如キ留保ヲ爲シ得ルトセバ日本モ留保シタイ規定ガ無イデハナイ、日本ハ委員會ノ決定ニ抗議シタコトガ尠ナクナイガ、多數ノ意ヲ見尊重スル爲メ反對ヲ固執セヌ次第デアル、調印ノ際留保ヲ爲スモノガ在レバ、條約ハ無効ト成ルベシト聲明シタ。然シ支那ノ云フ留保トハ如何ナル意義ナノカ明瞭デ無イ、若シ單ニ抗議(プロテスト)ニ過ギヌノナラ別段差支ハ無カラウシ、支那委員ハ本國政府ノ訓令ニ依ツテ行動シテ居ルモノノ様ニ思ハレルカラ、一應支那委員ニ留保ノ意味ヲ聞キ訊シテハ如何カト「ウキルソン」大統領發議シ、「ビション」外相カラ支那委員ニ質問スルニ決シタ。

留保問題ハ既ニ一般の案件トシテ起草委員會デ研究ヲ重ネテアル、平和條約ノ如キ重要ナ條約ニ留保ヲ許シタ先例ハ未ダ曾テ見ナイコトテ一八一五年維納條約中ノ規定ニ西班牙ハ不服デ調印シナカツタカ、一八一七年同國ガ該條約ニ加盟スル際ニモ留保ハ許サナカツタノデアル、若シ留保ノ自由ヲ認メレバ満足スルノハ支

那ヨリモ何ヨリモ獨逸ナノダカラ佛國トシテハ到底承諾不可能デ、英國モ亦同見故、筆者ト併セテ三起草委員ハ斷然留保不許可ノ態度ヲ持シ、三國全權ニハ豫メ此空氣ガ傳ヘラレテ居ル。首相會議ノ決定ニ從ヒ「ビジョン」外相ハ六月二十六日顧委員ヲ招イテ留保ノ意味ヲ質問シタラ、山東問題ニ關スル三個條ニ留保ヲ爲シ、條約調印ノ際署名ノ下ニ右留保ノ旨ヲ記入スルノダト答ヘタ、「ビ」外相ハ之レハ斷ジテ許スコトガ出來ヌト申聞カセタラ、然ラバ條約ニハ無條件デ調印シ、別ニ三個條ヲ後日更メテ審議サレタイ云フ書面ヲ送ツテモ良イト述べタトノコトダ。六月二十七日午前ノ首相會議ニ「クレマンソー」議長カラ右ノ報吾ガアツタ牧野男ハ明日調印ノ際ハ先ヅ獨逸全權署名シ、次ニ五大國ガ署名シタ後他ノ諸國ガ順次署名スル順序ダカラ獨逸及日本ガ無條件デ調印シタ後、萬一支那ガ突然留保スル様ナコトガアツテハ條約ノ内容ニ變更ヲ來タシ不都合至極ダカラ、首相會議ノ決定トシテ留保ヲ許サヌコトヲ豫メ支那委員ニ明確ニ通知シテ置ク必要ガアルト述べ、諸員皆之レニ賛成シタ、牧野男ハ更ニ支那ガ山東問題ニ付再考ヲ求ムル趣旨ノ書面ヲ提出シテモ之レハ條約ニ對シ全然何等ノ效力モ無イモノダト信ズルコトヲ宣明シ、是亦諸員ノ賛同ヲ得タ。

六月二十七日午後「ビジョン」外相ハ再ビ顧委員ヲ招キ、調印ノ際留保ヲ許サザルコト、若シ支那ガ別ニ留保ノ書面ヲ提出スル場合ニ於テモ調印前ニハ之レヲ提出スルヲ得ザル旨ヲ通告シタラ、顧委員ハ留保ガ許サレナケレバ支那ハ調印スル譯ニ行カスト繰返シテ言明シタノデ「ビ」外相ハ懇々無留保調印ヲ爲ス様說示シタ所、顧氏ハ首席全權ト協議スベシトテ引取ツタサウダ。

「ランシング」國務卿ノ提議

「ランシング」國務卿カラ會見ヲ求メテ來タノデ、牧野男ハ六月二十八日朝首相會議ニ行ク途中往訪シタラ「ラ」氏ハ支那問題ニ關シテ豫テカラ日米協同シテ其政局ノ安定ヲ計リタイト思ツテ居リ、先年石井特派大使ト協定ヲ結ンダノモ此趣旨ニ基イタノデアル、就テハ同一ノ方針デ此際支那側ヲ緩和シ無事ニ調印サセル爲メ、條約調印ト共ニ日本側カラ「ステートメント」ヲ發スルコトハ出來マイカ、夫レモ新タナ事柄ニ付テデハナク、既ニ首相會議デ日本全權ノ聲明シタ點ヲ一層明白且ツ具體的ニ、一般外國人殊ニ支那人ニ了解サレ得ル形式デ今一度聲明シテハ如何ダラウ、サスレバ支那モ無條件デ調印シ又支那ニ起ツタ「ボイコット」モ止ムダラウカラ、日本ノ爲メニモ利益ダト思フ、自分ノ考テ居ル「ステートメント」ノ案ハ大體左ノ通りダト語ツタ。

一、日本ハ山東省ニ於テ何等主權の權力ヲ要求スルモノニアラズ。

二、日本ハ膠州租借地ヲ還附シ、且ツ租借地内ニ於テ獨逸ヨリ取得セル一切ノ權利特權ヲ鐵道ニ關スルモノノ外支那ノ爲メニ拋棄ス、但シ支那ハ右拋棄セラレタル財産權ニ對シ日本ニ代償ヲ支拂フベク、且ツ青島ヲ萬國共同居留地トナシ、同港ヲ開港地トナスコトヲ約ス。

三、日本ハ講和條約調印後右還附ヲ完成セムコトニ努ムベシ。

四、日本ハ獨支間ノ條約取極中山東省ニ於ケル優先的專有的地位ヲ與フル條項ノ利益ヲ拋棄ス。

五、日本ハ自國ニ讓渡セラレタル現存鐵道ノ經營ニ關シ、支那又ハ他諸國トノ貿易ニ對シ、何等ノ差別待遇ヲ爲サザルベシ。

六、日本ニ敷設ノ特許ヲ與ヘラレタル新鐵道線ハ、支那政府ノ爲メ日本之レヲ敷設スルモノトス。

七、日本ハ唯鐵道運轉ノ安全ヲ保障スル爲メ、鐵道沿線ニ於テノミ特別警察ヲ設クルモノナリ、而シテ該警察ハ鐵道會社取締役ノ選定スル日本教官ヲ有スル支那ノ警察ナリ、且ツ右教官ハ支那政府ノ任命スルモノナリ。

八、日本ハ實行シ得ル限り速ニ山東ヨリ一切ノ兵力ヲ撤退スベク、事情之レヲ許スニ於テハ該撤退ハ二年ヨリ長カラザル期間内ニ完了セラルベシ。

牧野男ハ之レニ對シ日米共同シテ支那ノ事態安定ヲ希望スルコトハ全然同感デ、日本政府ニ於テモ其精神ハ不變ダト確信スルガ、貴案ハ種々ノ點ニ付大ニ考慮講究スルヲ要シ、又第二、第四ノ如キハ今迄ノ諒解ト異ツテ居ル様ニ見エル、兎ニ角我方デハ米國大統領ノ希望ヲ容レテ既ニ「ステートメント」ヲ發表シタノダカラ、今トナリテ其上更ニ事新シク世人ヲシテ全ク別個ノ聲明ダト疑ハセル様ナ「ステートメント」ヲ出スコトハ、四圍ノ形勢ニ鑑ミ自分ニハ到底出來ス、貴下ハ之レニ依リテ支那ノ民心ヲ鎮靜スルニ重キヲ置テ居ラレルガ、日本國民ハ此聲明ヲ讀ンデ如何ニ感ズルダウカ、山東問題ハ既ニ首相會議ノ決定ヲ經テ解決シタト思ヒ込ンデ居ル矢先キ、此様ナ「ステートメント」ヲ出シタラ我民心ハ必ズ激昂スルダロウ。今次支那ノ排日行爲ノ爲メ損害ノ莫大ナルハ素ヨリ、尠カラヌ死傷者サヘ出シタ模様ダガ、夫レニモ拘ラズ日本デハ政

府國民共ニ隱忍シテ居ル狀況ナノダ。何レニセヨ最早調印期モ切迫シテ居ルノデ事實上之レヲ講究スル暇ガナイ。又主義ノ問題トシテ調印前ニ斯克ノ如キ文書ヲ發表スルコトニハ遺憾ナガラ同意出來ヌト拒絕シタ、

支那ノ不調印

六月二十八日午前ノ首相會議ノ最中、講和會議事務局總長「ヂユタスタ」大使倉皇トシテ入り來リ、手ニ封書ヲ持ツテ只今支那委員カラト告ゲテ之レヲ「クレマンソー」議長ニ渡ソウトシタラ、「ク」議長ハ氏一流ノ例ノ猛虎的態度デ、今忙シクテ見テハ居ラレスト大喝一番「ヂュ」總長ヲ擊退シテシマツタ。總長ハ全ク度ヲ失ツテ封書ヲ手ニシタ儘出テ行ツタガ、氏ノ入ツテ來タ時ノ慌テタ様子デ、其手紙ノ内容ガ何デアルカハ大凡ソ判斷ガ付ク、之レヲ讀ミ上ゲルト又議論ガ出ル虞レガアル爲メ「クレマンソー」議長ハ斷然擊退シテシマツタノデ、此處置ハ無論講和會議全體ノ大局觀カラ出發シテ居ルニハ相違ナイガ、同時ニ煩ヲ繰返サセヌ爲メノ我國ニ對スル好意モ多分ニ含マレテ居ルコト明カダカラ、其席ニ居タ筆者ハ「ク」氏ニ對シテ更ニ新タナ感謝ノ情ヲ捧グズニハ居ラレナカツタ、聞ケバ其後支那委員ハ「ク」氏ニ會イニ來タガ同氏ハ面會ヲ謝絶シタトノコトダ。斯克シテ二十八日ノ午後三時カラ愈々對獨平和條約調印式ガ「ヴェルサイユ」デ舉行サレル段取リト成ツタガ、其半時間前陸、王兩全權ハ左記ノ書翰ヲ「クレマンソー」議長ニ送り、茲ニ支那ハ調印セズニ終ツタ。

支那全權ハ政府ノ訓令ニ從ヒ五月二十六日附書翰ヲ以テ、山東ニ關スル第百五十六條、第百五十七條及第

百五十八條ニ付、五月八日ノ總會議ニ於テ聲明シ會議錄ニ記載サレタル留保ノ下ニ、對獨平和條約ニ署名スベキ旨ヲ貴下ニ通告シタリ。

最高會議ハ如何ナル性質ノ留保タリトモ之レヲ條約中ニモ亦其以外ニ於テモ爲スヲ許サズトノ規則ヲ定メ且ツ權利ト正義ノ觀念ニ適合シ得ベキ一切ノ妥協、支那全權ノ署名ハ相當時機ニ山東問題ノ再議ヲ要求スルコトヲ支那ニ妨グルモノト看做ザル可ラズトノ宣言スラ、條約調印前ニ爲スコトヲ拒絕セルニ付、支那共和國ノ全權委員ハ本日「ヴェルサイユ」ニ於テ條約ニ署名スル資格アリト思考セザルコトヲ、貴下ニ通告スルノ光榮ヲ有ス。

支那全權ハ最高會議最後ノ決定ヲ本國政府ニ通報スベク、其回答ニ接スル迄獨逸トノ平和條約ニ對スル最終的決定ヲ爲ス支那共和國ノ權利ヲ、政府ノ名ニ於テ且ツ政府ノ爲メニ本信ヲ以テ留保スルノ光榮ヲ有ス。

第三十二章 其ノ後ノ山東問題

支那委員ノ態度講評

山東問題ヲ是程喧シク云フ支那ノ理由ハ何處ニ在ルカ、日本ハ返スト約束シテ居ルノダカラ實益ノ點カラ見レバ唯時日ニ多少ノ差異ガアル位デ、直接ニ獨逸カラ還附サレルノト全然同ジデアル、何ントナレバ直接還附ノ場合デモ日本ニ讓ルベキ權益ハ之レヲ我ニ讓ラナケレバナラス、又我モ必ズ之レヲ申受ケルカラデアル然ラバ支那ガ直接還附ヲ要求スル理由ハ單ニ面目問題ニ過ギヌガ、日本ノ様ニ此面目問題ヲ重視スベキ因縁ハ毫モ無イノダカラ、結局支那ノ要求ハ基礎ヲ缺イテ居ル無理押ニ外ナラス、而カモ此横車ガ只我國ニノミ仕向ケラレテ、他ノ列強ニ對シテハ如何ニ面目ヲ潰サレテモ恬然トシテ居ルノハ何ント云フ政策ノ樹テ方デアロウ、支那ガ此根本ノ考ヘヲ改メヌ限り日本丈ケ如何ニ努力シテモ日支ノ親善ハ到底之レヲ期待シ得ヌ許デナク、極東ノ事態ハ徒ラニ紛糾ヲ重ネルノミデアル。

支那ガ大正八年三月初旬講和會議ニ提出シタ對獨要求中ニハ、戰爭ニ依リ獨支兩國間ノ一切ノ條約ハ終了シタトノ前提ノ下ニ、領事裁判權、團匪賠償義務等ノ消滅ガ掲ゲテアツタガ、「ヴェルサイユ」條約ニハ團匪事件最終議定書ノ事丈ケヲ規定シタノミデ、領事裁判權ニ付テハ何ニモ書テ無イ、之レヲ還羅ニ關シテハ第三百三十五條「獨逸國ハ其還羅國トノ間ニ締結シタル一切ノ條約及取極並ニ之レニ基ク一切ノ權限及特權ハ、治